



Newsletter

No.13 (2004.2.18 発行)

JAICOWS 臨時総会と特別講演会開催される

JAICOWS の役員会・臨時総会と講演会が、2003 年 12 月 13 日(土)10:00~12:30 専修大学 神田校舎 8B 会議室(1 号館 8 階)で開催されました。総会に先立って原ひろ子氏(日本学術会議アジア学術会議専門委員、放送大学教授)の特別講演「アジアと女性研究者」が行われました。

臨時総会の議題は、1.会長・事務局の交代について、2.会計・その他でした。この臨時総会

において、会長は、島田淳子氏から、原ひろ子氏に交代し、事務局が昭和女子大学女性文化研究所から、専修大学法学部に移り、事務局幹事、会計等は専修大学から出すことが決まりました。なお、2004 年 3 月の総会までは、事務局幹事代行は昭和女子大学が行うことになりました。以下、新旧会長の挨拶を掲載します。

JAICOWS 会長辞任の挨拶

島田 淳子

(日本学術会議第 16, 17 期 第 6 部会員, 昭和女子大学副学長)

JAICOWS が発足したのは 1995 年 1 月でした。その前年に第 15 期日本学術会議が決議した声明「女性科学者の環境改善の緊急性についての提言」を実現する為には、私たち女性科学者自身が活動しなければならないとの認識と、実現への熱い願いによる発足でした。以来 9 年、JAICOWS は、全学問分野の女性科学者を構成員とする我が国で初めてのユニークな会として、学界における男女

共同参画の実現に向けて積極的に活動して参りました。その成果は、小さなせせらぎが次第に大きな河になるよう、随所に表われつつあります。新会長に原ひろ子先生をお迎えした JAICOWS は今後一層発展し、その活動の成果は波打つ大きなうねりとなって、女性科学者に明るい環境と力を与えることと確信しております。皆さん頑張って下さいね。

JAICOWS 会長就任の挨拶

原 ひろ子

(日本学術会議第 17,18 期 第 1 部会員, 放送大学教授)

島田淳子前会長が昭和女子大学の副学長としての任務に専念されることになり、JAICOWS 会長として後任をお引き受けすることになりました。第 15 期日本学術会議は 1994 年 5 月 26 日に「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言(声明)」を第 118 回総会で採択しました。当時は一番ヶ瀬康子(1 部)、加藤春恵子(1 部)、安川悦子(2 部)、林雅子(6 部)の 4 名の女性会員だったのですが、第 16 期(1994~97)には 210 名中女性は島田淳子(6 部)会員お一人という状態になりました。そして島田会員には広報委員その他多くのお役目がふりかかってきました。

そこで第 15 期の提言(声明)の実現に向けて日本学術会議の外側で活動する NGO として、JAICOWS が設立されたのでした。

当時の女性研連委員は 88 名(2,370 名中)でしたが、私は第 1 部文化人類学・民俗学研連委員としてその設立に参加しました。第 1 代一番ヶ瀬会長は第 16 期第 2 常置委員会を窓口とする日本学術会議に対して、日本政府の男女共同参画の施策との整合性に向かうという視点で友好的に折衝を重ねられました。更に JAICOWS 会員が関係する学会の男女会員を対象とする研究者としてのキャリア形成に関する調査を科研費で実施し、報告

書が勁草書房から刊行されました。第 17 期（1997～2000）に入り、「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」（尾本恵市委員長）が設置され、JAICOWS は第 2 代安川悦子会長を中心に盛んにシンポジウムを上記の特委と合同で開催しました。

そして日本学術会議は 2000 年 6 月 8 日の第 132 回総会で「女性科学者の環境改善の具体的措置について(要望)」を採択し日本社会の各方面に送付するとともに、同時に「日本学術会議における男女共同参画の推進について(声明)」を採択して、2010 年までに「女性会員比率を 10%まで高める」という努力目標を掲げました。第 18 期には「ジェンダー問題の多角的検討特別委員会」（蓮見音彦委員長）が設置され、JAICOWS は島田淳子前会員を中心として、保育問題、研究活動における

通称使用の問題、非常勤講師等(若い女性が多い)の科研費申請資格問題、キャンパス・セクハラ問題などに関するシンポや講演会を共催しました。

第 19 期に当たる今期（2003～）の日本学術会議はまさに大変動の時期を迎えており、日本社会における学術研究の在り方、学協会の在り方、研究者の自立性と創造性の行方などを巡って真剣に考え、対応すべき事態に直面しています。JAICOWS としては、第 19 期会員のメンバーと連携しながら、女性研究者のみならず、21 世紀の日本の学術の在り方に関してもしっかりと取り組んでいきたいと思ひます。

皆様、どうぞよろしくご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

第 19 期日本学術会議の新しいジェンダー関係研究連絡委員会名簿

第 1 部担当 ジェンダー学研究連絡委員会

江 原 由美子	東京都立大学人文学部教授
柏 木 恵 子	文京学院大学人間学部教授
佐 藤 学	東京大学大学院教育学研究科教授
長 野 ひろ子	中央大学経済学部教授
嶋 津 格	千葉大学法経学部教授
池 内 了	名古屋大学大学院理学研究科教授
高 橋 清 久	国立精神・神経センター名誉総長 精神・神経科学振興財団理事長

第 2 部担当 21 世紀の社会とジェンダー研究連絡委員会

浅 倉 むつ子	東京都立大学法学部教授
岩 井 宜 子	専修大学法学部教授
岡 本 三 夫	広島修道大学法学部教授
辻 村 みよ子	東北大学大学院法学研究科教授
戒 能 民 江	お茶の水女子大学生生活科学部教授
土 佐 弘 之	東北大学大学院法学研究科教授
御 巫 由美子	国際基督教大学社会科学科教授
若 尾 典 子	広島女子大学生生活科学部教授

第 19 期 日本学術会議は新しくジェンダー関係の研究連絡委員会を 2 つ立ち上げました。委員の名簿をごらんください。

この研究連絡会と JAICOWS もシンポジウム「科学技術とジェンダー」を共催しますので次ページにお知らせします。多数の方のお集まりをお待ちしています。

NWEC 女性研究者ネットワーク支援のための懇談会をたちあげる

2003 年 12 月から今年度、来年度と NWEC が上記の懇談会をたちあげました。委員長は、柏木恵子氏、委員は、伊藤セツ、佐々木政子、長野ひろ子、橋本葉子、辻村みよ子の各氏です。

ワークショップ等の計画をたてています。日本学術会議、上記二つの研究連絡委員会、JAICOWS との関係を目にしていきたいと思います。

日本学術会議第1部・第2部研連合同シンポジウム 「科学技術とジェンダー」

主 催：日本学術会議 ジェンダー学研究連絡委員会・21世紀の社会とジェンダー研究連絡委員会
JAICOWS（女性科学者の環境改善に関する懇談会：Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists）

日 時：平成16年2月23日（月）15：00～17：00

会 場：日本学術会議 大会議室（2F）

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34 Tel：03-3403-5706 地下鉄千代線「乃木坂」駅下車すぐ
プログラム

総合司会：辻村みよ子（21世紀の社会とジェンダー研究連絡委員会委員、東北大学大学院教授）

開会挨拶：原 ひろ子（第18期日本学術会議会員、放送大学教授、お茶の水女子大学名誉教授）

講 演

(1) ニコル・ドゥワンドル（EC研究総局＜女性と科学＞部長）

『EUの科学技術政策におけるジェンダーの主流化—EUの経験と日本への提言』

(2) 加藤万里子（慶應義塾大学理工学部助教授、第18期日本学術会議ジェンダー問題の多角的検討特別委員会WG委員）

『学術の世界におけるジェンダー問題の解決へむけて』

閉会挨拶：池内 了（ジェンダー学研究連絡委員会委員、名古屋大学大学院教授）

JAICOWS 総会・役員会・シンポジウムのお知らせ

下記の要領で JAICOWS 総会ならびにシンポジウムを開催します。多数の皆様のお集まりをお待ちしています。 JAICOWS 会長 原 ひろ子

日時：2004年3月16日（火）

1時～2時 役員会

2時～3時 総会

3時～5時 シンポジウム

場所：日本学術会議第2部会議室（5F）

総会議題：1. 2003年度活動報告
2. 2003年度会計中間報告
3. 2004年度活動計画
4. 2004年度予算
5. 役員交代と役割分担
6. その他

・出欠の有無・委任状を同封のはがきで3月10日までにご返送ください。

天文学会林忠四郎賞を受賞して

加藤万里子（慶應義塾大学）

このたび、表記の賞をいただきました。この賞は天文学会で最も大きな賞で、独創的で分野に寄与するところの大きな研究に与えられます。受賞タイトルは「新星風理論の構築と Ia 型超新星の起源の解明」で、共同研究者である夫（蜂巢泉：東京大学）との共同受賞です。

私どもは天文学者といっても観測はせず、理論的に星の内部構造や連星系の進化の理論の研究をしています。新星は実は古い星（白色矮星）が急に明るくなって、その後だいに暗くなる現象ですが、その暗くなり方を理論的に解明したのが、受賞タイトルの前半で、基礎となる理論は、私が30代の時に

作りました。40代後半は私はセクハラ被害で集中力が低下してぼーっとして、もっぱらそれまでの続きのような論文ばかり書いていましたが、その間に夫が私の理論を連星系の理論にくみこんで、超新星（の一種）の研究に新しい展開をもたらしました。

私にとっては苦しい時期を乗り越えて研究に復帰できるようになった時の受賞は喜びも大きいですが、今回の受賞を知った若手の女性研究者たちがすごく喜んでくれたのも嬉しいです。受賞理由は web につけました。お時間があればどうぞご覧ください。

ホームページ

<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/>

JAICOWS シンポジウム『少子化と女性』

趣 旨

2002年の合計特殊出生率（女性1人が生涯に産む子ども数）は1.32でした。人口を維持するために必要な子どもの数は2.08といわれており、日本は、近い将来、少子・高齢化社会を迎えることとなります。社会にもさまざまな変化が生じると予想されます。女性研究者にとっても大きな関わりのある少子化社会をめぐって、このシンポジウムでは、さまざまな分野から、少子化とはいったい何か、女性の生き方とどう関わるのか、少子化対策の現状はどのようなものか等々について考えます。ぜひご参加ください。

主 催 女性科学者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）
日本学術会議 21世紀の社会とジェンダー研究連絡委員会
共 催 ジェンダー学研究連絡委員会
木材学研連、天文研連（交渉中）、社会学研連（交渉中）
日 時 2004年3月16日（火）15時～17時
場 所 日本学術会議 第2部会議室（5階）
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 Tel : 03-3403-5706
地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車青山霊園方面出口左徒歩1分

プログラム

司 会 直井 道子（東京学芸大学教授）
神長百合子（専修大学教授）
開会挨拶 原 ひろ子（放送大学教授、JAICOWS 会長日本学術会議第17・18期第1部会員）
シンポジウム
シンポジウムの趣旨について 神長百合子
講 演
(1)「少子化の意味・人口学的観点から」
国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部 佐藤龍三郎
(2)「少子化対策2法について考える」 東京都立大学 浅倉むつ子
(3)「親になること&子育ての生物学」 千葉大学 内田 亮子
質疑・討論
シンポジウムまとめ 直井 道子
閉会挨拶 岩井 宣子（専修大学教授）

連絡先：〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8 専修大学法学部 神長百合子
電 話：神長研究室 03-3265-6288、研究室受付 03-3265-6217 FAX：03-3265-6297（研究室受付）
または、加藤万里子 慶応大学（天文学教室） 電話(045)566-1135（直通）

（この号までは、昭和女子大学の伊藤と中山、慶応大学の加藤が係りでした）

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒101-8425 東京都千代田区神田神保町 3-8 専修大学法学部 神長百合子
(03-3265-6288) Fax : 03-3265-6297（研究室受付）
<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/jaicows/>

事務センター：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル 株式会社ワールドプランニング
Tel 03-3431-3715 Fax 03-34311-3325 E-mail world@med.emall.ne.jp

郵便振替 口座番号 00100-8-542793